



題字 井口 文章
再刊 第298号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2019

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面: ペットボトル自動販売機導入とうなる
フットサルU-18 都大会ベスト8
二面: 55回生、実際に近い選挙を体験
錦城祭に向けて本格始動

待望の自販機導入へ向けて

議論広がる代議員会・生徒会

現在、ペットボトルの自動販売機設置に向けて代議員会や中央委員会が議論が行われている。今号では、代議員会の様子取材し、設置に動き出した背景などについてインタビューを行った。

意見飛び交う代議員会

6月19日(水)、書道室で第3回代議員会が開かれた。中央委員会の提案から、現在生徒会で進められている「ペットボトルの自動販売機(以下自販機)設置」についての意見交換が活発に行われた。1つ目の議題はペットボ



自動販売機設置への意気込みを語る次期議長

フットサル部、都大会で好成績

6月2日(日)に開催された第6回全日本U-18フットサル選手権大会東京都大会。スト16という成績を残した。元部長でAチームの澤田泰樹くん(3B)は「関東大会出場枠が増えるというチャンスがある中、関東大会に進むことができなかったのは残念」と話す。「ベスト8まで行くことができたので個人的にはやり切れたのかな」と中心をトサルクラブバルドラール浦

フットサル部、都大会で好成績

吐露する。澤田くんが1番記憶に残っていると話したのは、Aチームが自由が丘学園高校と戦った決勝トーナメントの1回戦。東京都U-18フットサルリーグ1部同士での対戦となり、前半開始7秒で得点を失ったが、最終的には4対2で勝ち切った。日頃の練習では、プロフットサルクラブバルドラール浦



「中央委員会と協力して話し合いを進めていきます」

本将旺くん(3L)は「今年度中の自販機設置を目標にしています」と語った。これからの代議員会については引き続き「各議員が積極的に発言す

ら、活発かつスムーズな議論にして欲しいです」と笑顔で話す。次期議長の三井飛鳥さん(2C)は秋球大まで自販機を設置して、多くの生徒に使用して欲しいという。また、先生への提案や議会で話し合った内容について「夏休み前までに改善策を出すことが目標です」と語った。

動き出す生徒会

同日、和室において新聞委員会主催で中央委員会の座談会を行った。前半は、導入への動きが本格化している自販機について生徒会役員の松本千冬くん(3B)、勝木直人くん(3G)、楠風太郎くん(2A)、岡崎翔也くん(2B)、森彩葉さん(2M)、島山結衣さん(2F)の6名に話し合っ



ゴミ問題について考えを出し合う役員たち

の分別表の作成やクラスへの呼びかけをする予定だと話す。自販機が置かれるまでの道は「まだまだ長く、生徒会はただで済むよう力を尽くしたい」と語った。

合唱同好会 コーラスコンサート

6月28日(金) 16:00~
視聴覚室A(新校舎3階)

ぜひ来て下さい!!

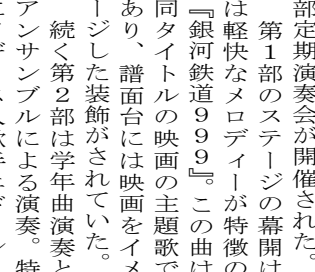
奏でる感謝のハーモニー

室内楽部・吹奏楽部定期演奏会



ソリストを中心に美しい音色がホールに響き渡る

6月15日(土)、ルネこだい室内ホールで第20回室内楽部の代表曲『Shape of You』の演奏では、リズムカルな曲調が弦楽器を弾く奏法で表現されており、観客は手拍子を交えながら見入っていた。



ポップな演奏と巧みな隊形移動によって彩るステージ

6月16日(日)、ルネこだい室内ホールで第44回吹奏楽部定期演奏会が開催された。第1部のクラシックステージでは、ヨハン・シュトラウスの2世作曲の『雷鳴と電光』等のなじみ深い楽曲を演奏する。

小論文のコツをつかめ!

6月12日(水)の6時限目、第2体育館にて1年生を対象にした小論文講演会が開かれた。今回の講師は桐原書店の小嶋清志さん。小嶋さんは小論文を書くときの注意点として「同じ言葉を何度も使わないように気を付けることが大切です」と話す。また、自分の意見に対する理屈付けが大切であるため、具体例を使って、内容を分かりやすくすると良いという。

むらさき草

歴史が好きだ。気になるものがあると時間を忘れて調べてしまう。『歴史は暗記教科』という人がいる。たしかに社会と歴史は暗記教科として覚えてしまえば、得点は取れるかもしれない。しかし、歴史はただの暗記科目だろうか。1812年のナポレオンのロシア侵攻の失敗から学んでいけば130年後、ヒトラーが第二次世界大戦でソ連に敗北することもなかったかもしれない。インドのガンディーの非暴力不服従は30年後、アメリカ公民権運動の指導者であるキング牧師のバスボイコット運動などの勇気ある行動につながった。良くも悪くも、「歴史は繰り返す」。好きな戦国大名に、「土佐の出来人」の異名をもつ長宗我部元親という人物がいる。彼は四国を統一した武将であるのだが、相継ぎに起さないうちに長男だけに英才教育を施した。これは同時代の信長も同じであるのだが、結局跡継ぎである長男はどちらか若くして死んでしまう。その後継者への教育も自分たちの死によって間に合わず、家中は混乱して両家とも滅亡していった。元親を主人公の一人にした三浦伸昭さんの小説『黒南風のうた』では、長宗我部家の隆盛から滅亡までの様子を細やかに描かれている。良くも悪くも、「歴史は繰り返す」。『歴史を学ぶ』と、いろいろながながながある。繰り返すこともあるし、意外なところまでつながっている。成功例にも学べることはある。先人たちの人生を調べ、学ぶことは、自分がどう生きるかを考えるきっかけになる。部活でも受験でも、成功した先輩たちを参考にすると今行動すべきことを理解できることがあるだろう。▼となく歴史はおもしろい。この夏は、自分の街の歴史について調べてみた。

